

平成28年度 京都市立桃陽総合支援学校 経営方針

学校教育目標

「からだ」「こころ」「いのち」を大切にし、規則正しい生活習慣を身につけ、未来を信じて、前向きに生きる子どもの姿を実現する。

(参照：平成28年度 学校教育の重点 P7～12)

【めざす子ども像】「桃陽」で学ぶ強みを生かし、次代と自らの未来を切り拓く子ども

- | | |
|--------------|---------------|
| ○「願い」を大切にする子 | ○「からだ」を大切にする子 |
| ○すすんで学ぶ子 | ○「思いやり」を感じ合う子 |

【めざす学校像】

病気の時だからこそ学ぶ 新たな学び 笑顔の学びがある学校
地域に発信し、地域ぐるみの教育の核となる学校

《病気と向き合う子どもが安心して学べる学校》

- ☆会いたい先生（教職員）のいる学校
- ☆行きたい場所（教室）がある学校
- ☆受けたい授業がある学校

《教職員が力を十分に発揮できる やりがいのある学校》

- ☆教職員が健康で活気にあふれている学校
- ☆教職員自身が「学ぶ喜び」「教える楽しさ」を実感できる学校
- ☆病弱教育に対する情熱を持ち、教職員が一体となって教育活動を推進する学校

《地域と連携し、地域に発信し続ける学校》

- ☆前籍校へのスムーズな移行に向けた支援ネットワークの構築が図れる学校
- ☆学校運営協議会を中核に、家庭・地域とともに子どもを育てる学校
- ☆入院療養中等の児童生徒（高校生含む）への支援を推進する学校

【めざす教職員像】

教育者として責任を自覚し、常に専門性向上をめざす教職員

平成28年度 学校経営方針

<病気のときだからこそ 行すべき教育の推進>

～「個別の包括支援プラン」に基づく指導の充実～

桃陽の教育を確かなものにするための9つの視点

(参照：平成28年度 学校教育の重点 P13～16)

- (1) 子どもの命を守りきり、「生きる」意味を伝える教育の充実を図る
- (2) 学校の組織力の強化する
- (3) 学ぶ意欲にあふれ規律ある学校風土を創造する
- (4) 子どもが生きる将来社会を見据え、キャリア発達を支援する。
- (5) ICTを活用した授業改善・教育活動の展開を推進する
- (6) 病弱教育のセンターとして地域支援を推進する。
- (7) 保護者・地域との連携を推進する。
- (8) 子どもや家庭に対する総合的・継続的支援を行う。
- (9) 学校評価を活用して、教育活動の改善を図る。

桃陽の教育において重視する視点

(参照：平成28年度 学校教育の重点 P2～P6)

- 1 子どもをできる存在としてとらえ、できる姿を通して「生きる力」を育む
- 2 子どもを社会に生きる一人の生活者として捉え、自立した社会人を育てる
- 3 子どもに集団や社会生活の中で必要な生活態度や規範意識を育む

児童生徒の基礎目標

- | | |
|----------------------------|-------|
| 「病状を理解し、自己の健康管理をしながら登校する子」 | －勉強－ |
| 「周りの人と挨拶を交わせる子」 | －挨拶－ |
| 「TPOに合わせた言葉遣いや服装をする子」 | －服装－ |
| 「様々な人とつながり、学ぼうとする子」 | －ICT－ |